

# 地域づくり

通信  
第19号  
平成26年3月

地域運営補助金を活用して

## 見守り

## 活動を

## はじめています

～お互いに見守り合える風土のまちづくり～

～みまもりの家 ところに行けば誰かがいる～

～自治会同士で見守り活動をサポート～

～防災グッズで見守りのきっかけに～

～世代を超えた見守りのまちを目指して～

～見守り活動をみんなに知ってもらおう～

詳しくは中をみてね♪



## 地域運営補助金を活用して見守り活動をはじめています

地域の課題を解決するための取組を支援する「瀬谷区地域運営補助金」。平成25年度は瀬谷区内6団体で活用されています。これらの団体の活動の共通キーワードは「見守り」です。各団体がどのように考え、工夫して取り組んでいるかをご紹介します。

### 三ツ境地区住みよいまちづくり推進委員会

#### お 互いに見守り合える風土のまちづくり

今年度、立ち上げた委員会では、あんしんカードの検討、見守りの検討、防災グッズの配布、広報活動、第2サロン設立、老人クラブ見守りの6グループが活動を始めました。

地区2か所目のサロンとして、富士見台自治会の人たちを担い手の中心とした「ゆうゆうサロン富士見台」を1月に開設し、参加した人は麻雀や折り紙を楽しみました。このサロン開設で地区北部に住む人が参加しにくいとの課題の解決を図りました。



リーチ！健康麻雀を楽しむ参加者

### 瀬谷第二地区高齢者・障害者の防災と福祉の実行委員会

#### 防 災グッズで見守りのきっかけに

瀬谷第二地区では、災害時に備え、高齢者や障害者を支援するため、日頃から見守りの活動を進めようと「防災グッズ」と緊急時連絡先を記載した「ふれあいカード」を配付しています。この活動は、3年目を迎え、計約770世帯と見守りの対象者が増え、着実に成果があがっています。

また、これまでの見守りや防災の取組を活かすために3月に研修会を開催し、各自治会の取組状況について意見交換しました。



輪になって意見交換

### 阿久和北部見守り合いネットワーク実行委員会

#### み まもりあいの家～そこに行けば誰かがいる

平成25年6月に「みまもりあいの家」が完成し、活動がスタート。「そこに行けば誰かがいる」をコンセプトに、いろいろな団体が協力し、スタッフとして常駐しています。そこでは、毎朝行う「顔合わせ幸せ体操」や放課後の子どもたちを見守る「見守り放課後塾」、区役所やケアプラザ職員が対応する「気軽に相談日」など月例の様々なイベントを通して、いつも「みまもりあい」をしています。



「見守り放課後塾」で子どもたちが楽しくお勉強

### 細谷戸ビーハイブ実施委員会

#### 世 代を超えた見守りのまちを目指して

「きめ細かい見守り」活動の一つとして「高齢者と子ども交流会」を1月に開きました。交流会の開催は、24年度から始まり、今年度で3回目です。

今回は、高齢者と子ども・親も参加し、簡単なゲームで参加者同士の親近感を深めた後、メンコ・コマ回し・お手玉・羽根つきなどの昔遊びをお年寄りから親子で教わり、遊びを通して触れ合うことで「世代を超えた見守りのまちづくり」を目指しています。



子どもと高齢者 手をつないで仲良く

### 第四地区のきずな

#### 自 治会同士で見守り活動をサポート

第四地区のきずなでは、昨年度のあいさつ運動に加え、「顔の見える関係づくり」として、自治会、民生委員、地区社協、保健活動推進員、女性地域安全員が皆、見守りと助け合いに取り組む体制ができました。見守りのための自治会ごとの会員カードの作成も取組が進んでいる自治会が他の自治会にアドバイスをする助け合いも進んでいます。



複数の自治会がテーブルを囲み知恵の出し合い

### 南瀬谷地区地域福祉保健計画推進協議会

#### 見 守り活動をみんなに知ってもらおう

南瀬谷地区では、平成25年夏に、より暮らしやすい南瀬谷のまちづくりを進めるため、地域活動への参加状況や災害時の見守りなどについて全戸アンケートを実施しました。その結果、「自治会や隣近所での見守り合い」について98%の人が必要性を認識していることが確認できました。アンケートの結果は「みなみせや情報通信」でわかりやすく紹介し地域全体での理解を深めています。



広報紙をみんなで編集

# 隠れた担い手を発掘！

地域では、「担い手がない」といった声が多く聞かれます。そんなお困りごとを解決するためのヒントとなるような取組を紹介します。

本郷地区では、平成24年3月に福祉保健に関する全世帯アンケートを実施したところ、「ボランティアをしてもよい人（65名）」が「お手伝いを希望する人（42名）」を上回り、担い手の方が多いことがわかりました。

この人材を活かそうと、本郷地区社協と連合自治会は、8つの単位自治会にコーディネーターを各一名置き、区社協ボランティア「男の手貸します」と中屋敷地域ケアプラザの協力を得て、助け合いのネットワーク方式による「本郷お助け隊」を平成25年4月に立ち上げました。ボランティアの活動は、庭木の剪定や、子育て支援、高齢者の話し相手、ゴミ出し、外出補助など多岐にわたっており、顔の見える安心の地域づくりに役だっています。

## 本郷お助け隊 ～助け合いのネットワーク～

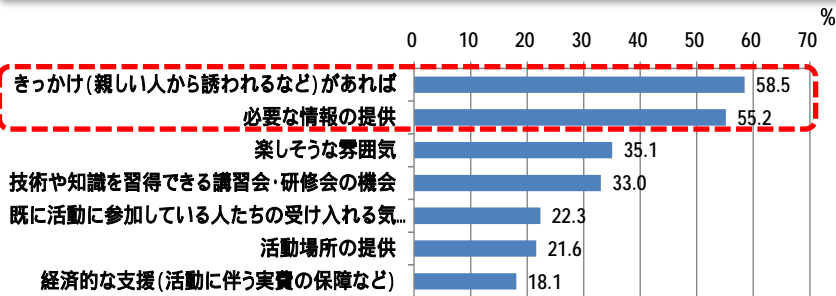


地区社協・中屋敷ケアプラザ共催の「いちごクラブ」での子育て支援のボランティアの方と乳幼児たち

<平成25年度瀬谷区・暮らしや地域に関する意識調査>  
(平成25年9月 瀬谷区内18歳以上の男女3000人対象(回収数1108件))

このキーワードでHPを検索！

### 担い手として参加するために必要と思われること



平成25年に実施した「瀬谷区・暮らしや地域に関する意識調査」によると、「担い手として参加するために必要と思われること」に「きっかけがあれば」58.5%、「必要な情報の提供」55.2%と半数以上の回答があったよ。

だけど、担い手やボランティアを単に募集(情報提供)しても集まらないってことってあるよね？！

本郷地区で担い手が多く集まったのは、アンケートにお手伝いできる内容を「庭木の剪定」「ゴミだし」「子育て支援」など具体的に示したことが成功の秘訣だったみたいなんだ。「これなら私でもお手伝いできるかな」といった想いを汲み取ったことで、担い手の発掘につながったんだね

お問い合わせ先

瀬谷区役所地域力推進担当

TEL 045(367)5789

FAX 045(365)1170

〒246-0021

横浜市瀬谷区二ツ橋町190番地

発行/平成26年3月

編集後記

地域運営補助金は、見守り活動だけでなく、地域の団体が連携して、課題を解決するための継続的な取組であれば、補助の対象となります。詳しくは、地域力推進担当までお問い合わせください。なお、26年度の募集は、4月の区連会を通してお知らせします。